

大正十二年四月

情報彙纂 第十一

朝鮮人の思想

朝鮮情報委員會

朝鮮人の思想

京城覆審法院判事 杉 浦 武 雄

自分は右の題の下に、朝鮮人の思想の全般に亘つて考へようとするのではない。單に朝鮮人は日本に對し如何なる考を有つて居るであらうか、そして其の考は將來どんなになり行くであらうかを考へて見ようにするのである。従て朝鮮人の獨立思想と云ふ點に一番多くの注意を拂つて行くことになる。

朝鮮人で苟も國家の何物なるかを考へる位のものならば、朝鮮の獨立を希望して居ない者は一人もあるまい。だから朝鮮人は獨立を望んでるだらうかと云ふ疑問は意味を爲さない。問題は朝鮮に於て今後大正八年三月勃發したような獨立運動——少くとも形式上——が起ることがあるだらうかと云ふに歸する。問題をこゝ改めて見ても馬鹿／＼しいように思はれる。而しながら考へ方によつては必ずしもそうでない。實際大正八年の獨立運動だつてそれ程長い間の計劃の下に起つたものでもなければ、又其れ程合理的な理由があつてのこととも思へない。殊に愛蘭問題もあることだ。必ずしも樂觀的な見方許りも許されない。愛蘭がデュームス二世を助けて英國に反抗を試みたのが一、六九一年頃だから此の年から起算して見ても英愛問題は二百年餘の歴史を有つことになる。其の間あのチツポケな愛蘭が大英國を向に廻して戰つて來た有様は

想像に餘るものがある。昨年一月七日の愛蘭臨時議會で英愛條約を批准し一段落を告げたようなものだが、未だ北部諸郡は依然として從來の態度を維持するだらうと觀測されて居る。日本と朝鮮、英國と愛蘭其の地理的關係、人種的關係、若し類推が凡ての場合に適用であるならば、日本は將來英國が苦しんだ程苦しまなければならぬと云ふ結論になる。其の土英國は愛蘭の外にもつと重要な殖民地を澤山有つて居る。日本は朝鮮を唯一の殖民地と重用視して居る。朝鮮は愛蘭よりも耐へ難い地位に居るとも云へる。

茲に於てか朝鮮に將來獨立運動が起るよ、これは無だらうかと云ふことも問題になるわけである。依て自分は、大正八年の獨立運動の環境、性質を考へて此の問題の解決しようと思ふ。

大正八年の獨立運動の中心を爲した者は所謂義勇隊等の紳士組の獨立宣言である。該宣言は大正八年三月一日李太王國葬の日に先づ、二日、義勇隊の代表者等が上京を機とし京城バゴダ公園に於て獨立宣言書の朗讀によつて發表せられた。宣言書に署名せる者三十三名、天道教、耶蘇教、佛教の名士を包含して居た。宣言文は同志者の一人なる崔南善によつて起草せられ大要左の如き趣旨のものであつた。

朝鮮の獨立國なること、朝鮮人の自主民なることを宣言す。朝鮮の獨立は時代の大勢に順應し、人類共同生存權の正當なる發動にして、何物と雖阻止抑制すること能はざれば、其の目的を達すること疑なきを以て、朝鮮民族は宜しく最後の一人、最後の一刻に至る迄、獨立の意思を發表し、互に相奮起して日本帝國の羈絆を脱し、朝鮮の獨立を圖らざるべからず

宣言書發表と同時に日本政府、貴衆兩議院、朝鮮總督府に宛てて朝鮮獨立の通告書を送り、米國大統領ウィルソンに宛てて其の民族自決主義を稱讃せる朝鮮獨立請願書を送り、巴里の講和會議に於ける列國委員に宛てて朝鮮獨立の意見書を送ることとし、之等書面の各送附方及獨立宣言書の配布方につきては天、耶、佛各派間に各分擔を定めて之に當り、堂々たる大運動を起した。京城府内に於ては豫め相談し置きたる配下の學生生徒を使用して特に猛烈なる宣傳を行ふた。此の運動の報告が地方に傳はるや全鮮各地渺からざる騷擾が起つた。

獨立運動は左の如き形式をとり外觀頗る堂々たるものがあつた。が而し其の内容は全く之と異つて居る自分の考察には其の内容が必要である。以下少しく其の内幕を見よう。

獨立運動が獨立の希望に基くことは當然だ。が而し獨立の希望の存在は常に必ずしも獨立運動となるわけではない。當時獨立運動者は獨立の希望の外に何を有つて居たか、彼等を獨立運動に導いたものは何であるか。自分は法廷に於て所謂紳士組の人々から何物をも聞かなかつたと思ふ。或は吾々四千年の歴史を有する朝鮮民族は……とか。「吾々一千七百萬の同胞は……」とか。「日本人が吾々をヨボと云ふのが癪に障はつたから……」とか。要するに獨立を希望するから運動したのであると云ふに歸著し、眞に其の希望は尤もと思ふが、獨立運動を爲したる動機としては物足らなかつた。其の巨頭とも見るべき孫秉熙はこんな事を言ふた。「自分は元來親日派であつて、以前は日本の便宜も計つたし、日本も自分達を認めて呉れた

某々將軍等とは膝を交へて快談したものだ。然るに日韓併合後彼等の私に對する態度が一變した。彼等は私に面會することさへもせぬ。第一之が氣に入らぬ。次には自分が命とも思ふ天道教に對しての總督府の遣り方が癢だ。既に集めて仕舞つた寄附金迄を返還さすとは何事であるか。此の如き待遇を受けては日本に反感を懷くのは當然ではないか」又耶蘇教の名士だつたと思ふが次の様な陳述を爲した。「自分は元來宗教家であるから政治問題には關係したくないと思つて居た。又朝鮮が日本に併合せられて居るのも、天意であると信じて居る。朝鮮の獨立を望希する點は人後に落ちないが、人爲的には賛成したくなかつた。只自分は世界の大事を見て天が朝鮮の獨立を許させ賜ふ時が來たと思ふたから遂動したのである」と

何れも自分を首肯せしむるに足りない。其の上獨立宣言書發表に至る迄の耶蘇教側と天道教側との交渉顛末も亦注意して置かねばならない。即天道教側で獨立運動をしようと相談が出來た頃耶蘇教側も賛成であるとの事が解つた。茲に於て兩派幹部の會見となり、耶蘇教側は崔麟の仲介で天道教側から運動資金五千圓を借受け成るべく同一步調に出ようと約束した。ところが天道教側は飽迄獨立宣言を行ふからと主張し、耶蘇教側は獨立請願で行かうと主張した結果、其の意見の相異が仲々折れ合はなかつた。一關係者の一人なる吳基善は獨立宣言に反對だと云ふて、連盟から脱退した事實によつても如何に兩者の折合ひが六ヶ敷かつたかを想像することが出来る。漸く大正八年二月二十四日になつて、耶蘇教側が折れることになり、兎も角も一致の行動に出る事が出來たのであつた。此の經緯を冷かに觀察すれば先の五千圓が、耶蘇教側

を心ならずも獨立宣言に賛成するように餘義なくしたのではないかと疑ひたくなる。

以上の様な人々を集め兎も角も獨立運動の形をとり堂々と最後の一人、最後の一刻迄奮起すると高唱せしむるに至らしめたのは崔麟の力である。自分はあの獨立運動を崔麟一人の劃策と思ふも差支ないと思ひて居る。然らば崔麟其の人は如何なる考を有つて居たか。

法廷に現はれたる彼は年四十三、中肉、中背、端坐、下俯、裁判長の質問に對し最も簡單に答辨した。他の或者のやうに國士を以て任ずることもせねば、立役者であつたやうな風もしない。丸で反對であるかも知れぬが自分はふと由井正雪はこんな男ではなかつただらうかと思つた。彼は單に「自分は朝鮮人だから獨立を希望する。民族は各自主でなければならぬ。世界の大勢が左様に動いて來たと思つた。獨立がきつと出來ると云ふ確信はなかつた。獨立が出來たら如何してやつて行かうと云ふ考はなかつた」と答へた。

之は變だ。獨立運動の主謀者が獨立後の方針について何にも考へて居らぬと云ふことは腑に落ちぬ。崔麟が考へて居なかつた位だから外の連中が考へて居やう道理がない。崔麟が虚偽を述べたとは思はれない。だから誠に變だけれども何人も獨立後如何してやつて行くと云ふことを考へずに獨立運動をやつたのだと信ずる外はない。

こうなると疑ひたくなる。彼等は本氣で獨立運動をやる氣だつたのだらうかと。崔麟は、ことによると

彼の由井——正雪の様に「幕府の政治が悪くて上下萬民困窮して居る。之を坐視するに忍びず事を上げたのである。先づ元兇酒井讃岐守を遠流に處し、暫く籠城して天下の成行を見て居り、其の上如何やうにも御成敗せらるる考へであつた。幕府を顛覆する念慮等はない」と云ふ位の考ではなかつたらうか。即政治的に朝鮮人の地位を高めるのが主たる目的で、獨立と云ふ點は出來れば幸位に取扱つて居たのではあるまいか。

ところが左様でない。然らば如何見たらよいか、獨立運動主腦者の考が右述べた様であつたに拘らずあんな大騒の起つたのは、一に米國大統領が講和基礎條件として十四箇條の覺書を示した中に、殖民地等に關する事項は民族自決主義に従ひて解決すべしとあつたので之に勵まされた結果と見るべきである。彼等は其の獨立宣言書に記載したやうに朝鮮民族が最後の一人、最後の一刻に至る迄、獨立の意味を發表したならば諸外國も默殺は出來まい。日本も餘義なく朝鮮の獨立を承認するであらうと考へたのである。既に諸外國の力を借つて獨立を爲すのであるから、獨立後の事も諸外國に任せる積りで居たのである。扱こそ彼等が最後の點を考へて置かなかつたのである。こんなには居なかつたかも知れないが、先づこゝ等て間違ひなからう。序ながら或は獨立宣言書が李太王の國葬の二日前に發表せられたのを見て、李朝に對する崇敬の念が奮起して、彼の運動を見るに至つたのであると云ふ人がある。自分は之に賛成が出來ない。右の如きは日本人の心持から類推した結論であつて、朝鮮人の場合に當嵌まらない。自分の考へによ

れば事實朝鮮人は必ずしも李朝を愛惜し、李朝を崇敬して居ない。李朝亦必ずしも全朝鮮人から之を期待する資格がない。而しながら朝鮮人にとつて李朝の滅亡は同時に朝鮮國の滅亡であつた。李朝の滅亡を必ずしも悲まない人々も朝鮮國の滅亡には無念の齒を嚙んだ。彼等は李太王の國葬を行ふの日朝鮮國の國葬を行ふと感じ、李太王の輓歌を朝鮮民族の輓歌と聞き、朝鮮人の心は例外なく悲痛を極めた。斯くして朝鮮人の民族心は從來に類例なき程度に高調を示した。炯眼なる崔麟は此の機會を見逃がさなかつたのである。否々彼自らも此の心理に動かされた一人であつたのだ。

所謂獨立運動を左様に觀察して來ると少しく朝鮮の人情を知る人には獨立運動の起つたことを極めて自然的だと考へるであらう。

支那に所謂支那人の喧嘩と云ふのがある。雙方聲を大にして虚勢を張る。之を聞く者は定めし澤山の怪我人が出ただらうと思ふが、決してそんな事はない。一人二人の死人が出る等と云ふことは稀有の事に屬する。此の喧嘩の公式は小は無賴の徒の小さな出合ひから、大は張作霖、吳佩孚間の政争迄に當嵌る。朝鮮にも朝鮮の喧嘩の公式がある、支那の夫れとは多少趣を異にするが、大小凡ての喧嘩に當嵌まることは同一である。先づ喧嘩の當事者は此所に喧嘩が有るぞと第三者に告げる意味での奴鳴合が始まる。途方もない聲で語り合ふので、事情を知らぬ内地人なんかは命の取り遣りが始まる位には思ふ。其處へ悠然として大勢の見物人が集まつて來る。尤もらしい顔をして眺めてるのもあれば、喧嘩の理由を傍の者に聞い

てるのもある。其の内に喧嘩の當事者中自分の方が理窟がよいと信ずる方が傍觀者に對して一わたり喧嘩の原因と相手方の暴行とを説明する。相手方は之に對して抗辨する。傍觀者は長いキセルを噛へながら何かしら判斷する。朝鮮語の判らない内地人が何だか様子が變だなど思ふ頃には喧嘩はもう済んで居る。理窟の悪い當事者は三丁も先を歩んでゐる。何時であつたか俵屋が客と賣銀の事で喧嘩をしてゐるのを見たが傍觀者に内地人の僕が混つてゐるのを見て俵屋が内地語で説明をしたことがあつた。實際朝鮮人は審判者に自己の立場を訴へることの得意な民族である。反對に血を流して單獨に矢表に立つことの嫌ひな民族である。彼等が賭博や訴訟を好むのは、必ずしも射幸心から説明しなくとも此の心理から充分に説明がつく。勿論朝鮮人の此の性質を本然の性質と考へることは間違つて居ようが、立國以來の歴史に鑑みれば、可成り長い間に修得した第二の民族心と考へることは間違つては居まい。内地人杯は相當の人物でも一寸辟易する法廷へ來て何にも知らぬ田舎者の朝鮮人が堂々と自己を主張する所は實に奇蹟と云ふてよい。

自分は大正八年の獨立運動を此の民族心理に基くものと斷定して誤りなきを主張する。此處に於て自分は第一段の結論たる朝鮮には第三者の後援なくして今後獨立運動の起ることはあるまいと云ふ斷定に達した。――勿論朝鮮が内地よりも實質的に偉大になつた場合は別だが之は現在の問題に關係がない。

然らば進んで今後朝鮮の獨立運動を援助しようとする第三者が現はれることがあらうかを考へて見なければならぬ。尤も國際關係は理論一片では推す譯に行かないが、之を取扱ふには矢張り理論を辿つて見

る外はない。自分は朝鮮獨立と云ふことと表裏して考へらるる、日韓併合は日本にとつて正當なりやと云ふことを端的に考へて此の點を片付けることとする。

米國商務官ア氏が「アトランチック、モンスリー」誌に掲げた一論文は公平な正論と思ふから左に引用することとする。

「日本が朝鮮を併合するに至つた遺口に於ては非難すべき點がないではないが、之は日本として必要上、已むを得ざるに出でたものである。即ち朝鮮が獨立を失つたのは、何よりも最も、地理上の關係が然らざるを得ざらしめたのである。朝鮮半島は眞直に日本に擬せられた短銃である。此の短銃に丸が込まれて居ずに机上に安置せられた間は先づ日本も安心して居られた。而し面白くない國が密に其の短銃を手に執らうとすると見ては、日本としては自己の安全の爲に決然たる行動に出なければならなかつた。自衛は自然界の第一原則で國家に於ても個人に於ても同様に必要である。日清、日露の兩戰役は此の爲に已むなく起されたものである云云」

自分は日本が朝鮮を併合したにつきて二つの理由を擧げる。

一つは右商務官の説の如く、當時可成有勢であつた諸外國の帝國主義的政策殊に支那、露西亞の同政策が日本を驅つて、日韓併合に追ひ詰めたと見るのである。日清戰爭の當時未だ立派に見えて居た、支那が其の侵略的野望を充たそうとして、手を朝鮮に延ばして來た。支那の底意氣は日本併合にありと知ら

れたので、開戦當初の日本は蒙古襲來の時は斯くやと思はれる許りに震駭した。進退兩難の境に置かれた日本は乗るか反るかの糞度胸で應戦した。漸く日清戦争が形付いて十年、日本は再び露國と戦はねばならなくなつた。當時露國は世界第一の陸軍國であつた。日本人が尊敬する西洋人の國であつた。日本は曩にも増して心配した。出来ることなら此の戦争を避けたかつた。が而し事情は之を許さなかつた。茫々三千里西伯利亞横斷鐵道を完成した露西亞は更に其の復線工事をさへ計劃していると傳へられた。此に於て日本は一時も猶豫することが出来ぬと觀念した。一時の儉安は永久の侮を残す虞れがある。日本は舉國一致國難にあたらんとした。日本は勝つことは勝つた。けれ共戦後事の真相が判明して見ると、彼の軟弱外交と詈つた小村大使に感謝しなければならなかつた程日本は參つて居たことがわかつた。

日本の參謀本部の主腦に如何なる成算があつたかは知らないが、公平な觀察によれば日本が必ず勝つと誰が言ひ得たらう。西洋人達は何人も日本が勝つとは思はなかつたと聞いて居る。此の日本が日本必敗の世評の下に日本必勝の自信なく右兩役を戦ふたと云ふことだけで日本は決して侵略的野望の爲に戦争したものでないと言ふことを斷言してよい。換言すれば日本は支那や露西亞の帝國主義的政策の犠牲となることに抵抗したのみである。朝鮮半島喪はるれば自己亦危ふしと觀念した日本は持つて生れた負けじ魂で自ら進んで骨子を投じ其の運命を一六勝負に賭したと見るべきである。果して然らば滅亡の運命を危く免かれた日本が禍の源たる朝鮮を併合して自己の存立の安定を計つたのは已むを得ざるに出た必要行爲として

認めてやらなくてはなるまい。―此の間にあつて日本の政治家、軍人などの頭に帝國主義的の考へが多分に含まれて居たことは認めなければならぬが、事實の真相を洞察する人には最少限度の自衛權を行使しつつある自分の行動を、帝國主義的主張の實行であると思ひ違ひをして居た人達の己惚れが見えすくと思ふ。―日韓併合が右の如く日本の必要行爲として見るはよいとして、日韓併合の存續も日本にとつて必要行爲だと云へるか如何か？。

成程一面から見れば支那や露西亞が今日の如き状態に陥つた以上日本は其の必要として併合を維持して居るのでない様にも見える。けれども靜かに考へて見れば日本が朝鮮を手離なしたとすれば朝鮮は再び日本にとつて机上に置かれた短銃となる。密つと手にして日本につきつける者が無いとは言ひ難い。其の上日本が朝鮮を離せないのは自分の第二の理由から来る。それは日本の人口問題である。日本人は世界に於て随分生産率の多い國民である。狹少なる其の本國々土のみを以てしては如何に之を過失なく利用したところで、何時迄維持が出来るものではない。日本が海外殖民と云ふことを考へるのは已むを得ない。

―尤も亞米利加邊には日本が如何に窮すればとて他國々土に其の逃げ道を求めるのは正當でない、日本は其の國土を範圍として自己の生殖を調節すればよい。それが出来ねば自滅すればよい。それが日本に課せられたる運命ではないかと云ふやうな議論をする人もあるようであるが賛成出来ない。理論的反駁は略す―處が因果な事に日本人は何處へ行つても排斥せられる。北米合衆國に於て、英領カナダに於て、濠洲に於

て 最近合衆國の高等法院は日本人の「カリフォルニア」州に於ける土地所有權問題に關し日本人にとりて頗る不利なる判決を下した。判決の裏に流れる思想が人種相異の問題であるならば未だ望みもあつたが、經濟問題だと云ふに至つて策の施し様がない。理由の如何に拘らず合衆國への日本移民は前途有望でないことになつた——茲に於て日本は朝鮮、滿洲、蒙古、西伯利亞と限を著けた。幸に朝鮮は併合の名に於て日本の殖民地である。之を足場として滿蒙、西伯利亞政策を施し、移民を奨勵し、人口問題を解決しようと考へたのは是非ないことと思ふ。此の第二の理由は前掲諸國が日本の移民を排斥し續ける間又日本人の生殖率が低下しない間日本に對しては生死の問題として残り、日本をして朝鮮併合存續の必要行爲たることを主張せしめ、益其の滿蒙政策に努力せしむるであらうことは亦已むを得ない。

以上二つの理由よりして日韓併合を見るならば日韓併合は内政の紊亂に苦しむ朝鮮人を助ける日本人の同情心の爲めでもなければ、諸外國の壓迫に苦しむ韓國政府を救ふ日本の義侠心の爲めでもない。日本は自己の存立防衛の爲の必要上朝鮮を併合したもので其の併合の動機に韓國の利益の爲などと云ふことを考へて居なかつたことは確である。尤も日本の此の如き態度の併合が冷靜に考へれば同時に朝鮮の爲、引いては東洋全般の爲であつたと云ふことは云はれないことでもない。自分の此の結論には反對する人があるかも知れない。而し自分には之れが眞實だと見える。眞實は之を如何にかくそうとしても顯はれる。のみならず之をかくそうとする時種々の虚偽と技巧とが行はれて人の氣を惡くする。だから斯く事實をふちま

けて然る後誠心誠意朝鮮の爲を計るがよい。其の方が朝鮮人の爲めどれ程氣持がよいかわからぬ。―此の點につきては大に論すべきものがあるけれど他日に譲る。

以上の如く日本が其の自衛存續の必要上朝鮮を併合し、自衛存續の必要上其の併合を維持してると見て、日本の態度は正常であらうか。進化論を信ずる自分は此の點を進化論の立場から批評して見たいと思ふ。

凡そ生物―人類をも含めて―進化の現象は第一次的には各個體は各個體に對し各團體は各團體に對し所謂自然淘汰、生存競争の理によつて支配せられるが第二次的に相互扶助性の働くことも拒むことは出来ない。而して人類が他の生物と異なるところは此の相互扶助性が自覺的であること及其の自覺徹底せる結果、理想、創造の力を有するに至つたことにあるのであるから、或意味に於て、人類のみが相互扶助性を有すると見て差支ない。而して此の第一次性と第二次性とは如何なる順序に働くかと云ふと、各個體なり、團體が生存競争を爲しつつも尙各其の自衛存續の保證が確である時、始めて相互扶助性が働き出すのである。故に生存競争が劇烈で各生物が其の最少限度の生存自衛すらを確保せられて居ない様な時には相互扶助と云ふことは有り得ない。斯く見て來ると人類が各其の自覺的相互扶助性を發揮して生物界の筆頭人類として誇るを得るのも其の自衛存續が安全である間だけのことで。一旦此の點に脅威を感じれば、彼等は躊躇なく人類であると云ふ自負心を拋棄し、平生物の昔に歸り、在らゆる知識を絞つて、他の生物には見ない程の慘酷なる生存競争を始めるのである。

一つの事實、其れを人類界の出來事として見る時、そこに善惡、正邪の判斷も出て來るが之を生物界——人類を除いた——の出來事として見る時、何の善惡正邪の問題であらう。價值判斷をしようと云ふのが抑間違つてゐる。寧ろ更に一層廣く宇宙間の一つの無意的事實として見るべきであらう。孔子が倉廩充ちて禮節を知り、衣食足つて榮辱を知ると云つたのは此の間の消息を洞察したものであり諸國の刑法に緊急權を認めてゐるのも同様の理由から來る。

自分は日韓併合及其の存續の事實を上述の如く日本にとつて最少限度の自衛存續の必要に出でたる行爲、即相互扶助性を發揮する餘地のない迄に自衛存續が脅かされて居た時の行爲と見るが故に、單に之を自然界に於ける生物間の生存競争の一事例と見る外はないと考へる。從て善惡正邪等人間の行爲を批評する爲の言葉を以て臨むべき場合でないと確信する。此に於てか日本が朝鮮を併合したことを非難することは出來ない。尤も誤解を避ける爲に一言すべきことがある。それは日本の併合後に於ける朝鮮に對する態度についてである。自分は日本は其の自衛存續の最少限度の必要上朝鮮を併合してると見たから非難が出來ないと云つた迄で、朝鮮を勝手氣儘に處分してもよいと云つたのではない。故に自分の議論からしても日本は朝鮮に臨む時飽く迄最少限度の必要と云ふことを標準としなければならない。朝鮮併合の結果日本が或程度の寛ぎを得。其の自衛存續の安全を得たとすれば、此の時を起點として日本對朝鮮の問題は直に生物界の問題を離れて、人類界の問題に歸る。從て其の後の日本の態度は凡て善惡正邪の批判の的となら

なければならぬ。此處に日本の朝鮮統治策がある譯になる。論すべきことは多いが少くとも日本は自己の不自由を忍んで日本の犠牲となつた朝鮮に感謝することを忘れてはならない。

扱之で日本が朝鮮を併合したことにつき理論的には非難の餘地がないと云ふことになつた。さすれば一應第三者が朝鮮の獨立運動を援助しやうと云ふ様なことは起つて來ないと推論してよからうと思ふ。更に現在日本に威迫を加へ得る國家は英、米二國の外なく、而も英國は日本と同様な殖民地問題を有する關係上、日本の朝鮮政策に漫然非難を加へることは出來まいし、米國最近の態度を見れば寧ろ同國は西伯利亞及支那に興味を有つて朝鮮のことには餘り立入らぬ方針らしい。早い話が華府會議の當時米國が朝鮮の獨立の爲奔走した者に對してとつた態度を見ても此の間の消息が知れよう。

尤も時勢が變つて徹底的民族自決主義でも承認せられる様になつたら、朝鮮を援助しようと思ふ第三者が現はれて來ないとも限らないが、自分の考では、そんな時代が來る頃には國家とか民族とか言ふ觀念其ものが丸で變つて來ようと思はれるから、そんな先のことを現在の國家思想、民族心理を根據として議論することは餘り價值のあることとも思へない。

ここに第二段の結論たる差當り朝鮮の獨立を援助しようとする第三者なしと云ふところに落ちついた。果して然らば朝鮮は其の民族性上又四圍の環境上獨立運動をやることは出來ない。即ち朝鮮は今のところ日本との併合状態を繼續するであらうと云ふ結論に達したわけである。

或は朝鮮に於ては現在尙獨立運動があるではないかと云ふ人々の爲に一寸御答して置かなくてはならない。成程孫秉熙が奮起した當時、一部の人が上海に逃れて假政府を設け、間島に走つた同志者と連絡をとり、獨立思想を宣傳し、同志を集め鮮内各地に人を派して獨立運動資金を徵集した頃に於ては眞面目に獨立運動をやつた者もあつたかも知れぬが、其れは本の當座のことで此の種のもは間もなく跡を絶つた。其の眞相は或は獨立運動資金募集の爲、或は右資金提供の爲に法廷に引出された人々の態度を見ればよく判かることで、大正八年から九年の初頃迄の連中には眞面目な獨立運動者も居たが、其の後の連中は多くエタイの知れぬ連中ばかりであつた。多分は上海か間島に居る曩の獨立運動者が自己の立場を維持する爲には鮮内に獨立運動の氣分が動いて居ることを必要としたので、極力無智な人々を煽動して鮮内獨立氣分の振起を計つた爲に之に引がかつた連中か、さもなくば惡賢い夜盜の連中であつて、後者は假政府の名を藉り獨立軍資金募集名義の下に強盜を働いたのであつた。裁判上も之等は多く強盜罪で處罰せられて居る。更に今日に於ては假政府無力の眞相は暴露せられて夜盜の看板にさへ足りぬ有様となつた。故に此の種の者を獨立運動と見ることは出来ない。――尙御斷して置くが何時の世にも例外的事實は存在する。自分は鮮内一つの獨立運動者なしとは云はぬ。只其れ等の者をば變體的人物として論外に置いてゐる迄である。彼の最近發生した白大鎮の新天地事件及現在間島に跳梁してると云はれてる所謂不逞鮮人團につきては多少右と趣を異にすると思ふし便宜をかりて後に述べることにする。

之れで自分の議論の前提たる朝鮮は日本との併合を續けて行く外はない。又客觀的に之を非難することは出来ない。朝鮮人は獨立運動はしない。と云ふ諸點が確定したことになるから、此の狀態を基礎として朝鮮人の對日思想を論究してよいのであるが、以上客觀的見方に對し一應主觀的見方即ち朝鮮人の併合に對する現今の心持如何と云ふことを考察して見るを便宜と思ふ。

朝鮮人は獨立運動をやる事はないが、獨立を希望しない譯ではない。況して日本の政治に悦服して居るのではない。凡そ一民族が長い歴史と特異な風習を有つ民族が他の民族に屈從しなければならなかつたとすれば、屈從して居る民族は、無原因に獨立を希望するであらう。屈從の原因が如何にあらうと、獨立の望がかすかであらうと其れは問題にはならない。少しく物心のある者ならば心から獨立を願ふであらう。而して此の願望たるや人間自然の感情の湧き出た者で、理論から來たものではない。理論から來たものではないだけに其の根底が深い。同時に理論を以ては如何にすることも出来ない。朝鮮人の或者は日韓併合を餘義ない事情と認め、獨立の不能をもよく承知して居り、却て日本の公平なる態度をも是認することが出来る。而し是認するのは彼等の理論である。彼等の感情は此の理論によつて全然終熄することは出来ない。此處に朝鮮人識者の煩悶がある。煩悶の彼等は何を考へたらうか。

一 日本 of 了解の下に獨立國たらうと考へた。之れは孫秉熙の仲間の中耶蘇敎の人々が考へたところであつた。朝鮮人としては最も穩當な考方である。其の實質は朝鮮に自治を許されたいとの希望と同一であ

る。必ずしも實現不可能な考とは思はないが、此の種の獨立を得ると云ふことは徹底的に朝鮮人の心を満足せしむる所以でない。又今日が今日目的が達せられると云ふのでもない。

二 右と略同一に見えるのは崔麟の考へたところである。彼は思ふた、朝鮮は飽く迄自立的に獨立しなくてはならない。但今日に於ては日本を頼りにして行かねばならぬであらう。日本を頼りにしたからとて朝鮮の獨立に傷はつかぬ。何となれば朝鮮は自分の意思でそうしたのだからである。尤も崔麟はこんなに判然りと言ふては居ないが、彼の言動に徴してそう見てよからうと思ふ。然らば實に參考品とも言ひたい様な微妙な考へ方である。自分等が思へば、日本の世話になれば、日本に禮を言はねばならぬ。日本の無理を通さねばならぬ。其の結果たるや朝鮮の地位が今日以上に高まるか如何かは疑はしい。而して尙彼の獨立方法は失敗に終つた。

三 亞米利加と併合する方がましだと言ふ考、朝鮮が完全なる獨立國となることは、眞に望ましいことであるけれども、現在の時世に於ては朝鮮が單獨に獨立國として存續することは六つかしい。かと云ふて日本と併合を繼續するのは不利益である。吾々は理由なく日本を排斥しようと言ふのではない。日本と併合すれば實質的には日本の唯一の殖民地とならなければならない結果、日本は政府、國民其餘すところなく朝鮮を利用しようとする。今日迄の經驗によつて、略想像がつくが、此の儘押し進んで行つたなら、幾何もなくして朝鮮の一切は日本に歸し、朝鮮人は住むに家なく、耕すに土地なき憐れな漂泊者として西伯利亞へ

でも去らなければならなくなるであらう。之等物質的な事は未だ現在に於ては忍ぶことが出来るが、吾々が日本と一對一の關係で日本と對應せねばならぬ時、常に感ずる或る種の壓迫の感は、日本人の大和民族であると云ふ自覺の熾烈なるところから來るので、吾々の一番苦痛とするところである。孫秉熙一味の中に「何故獨立運動に参加したか」と云ふ問に對して、日本人が吾々を「ヨボ」と云ふのが癪にさわつたからだと言へた者があつた。日本人から見れば愚にもつかぬ答辨と見えようが吾々から見れば痛切に吾々の心持を言ひつくしてゐるものと主張する。吾々は自ら「ヨボ」と呼ばれた時、若くは同胞が「ヨボ」と呼ばれるのを聞く時、眞に情ないことではあるが、憤慨の心よりも先づより多く悲哀の心持が起さる。自らの地位を諦め切つた人の心持ではないか。此の心持は内地人の何人も想像だも出來ぬところである。茲に於て吾々は考へる。所詮單獨獨立が出來ないものならば、吾々は寧ろ亞米利加合衆國と併合しよう。そこには「ビュートン」の外に新來の英人、佛人、獨人等多數人種が混存する結果、國家とか民族とかに對する觀念が日本の其れの如く排他的に凝結しては居なからう。そこには博愛を教義とする耶蘇教が行はれて居る。其處には沃野千里新來の吾々を迎へようとして居ると。

之は主として耶蘇教を信じた人達の間に行はれた考と聞く、而し此の考は巴里講和會議、華府平和會議の際西洋人も必しも彼等の同情者でないと云ふことを知るに及んで可也り下火となり、實行不能と心付いて全く終息してしまつたらしい。近來日人の經營する學校に盛に「ストライキ」が起る。或人は日人の虚偽と

高慢とを痛感した朝鮮人の當然とるべき態度であるとさへ云ふ。

四 汎東洋主義とも云ふべき考へ方である。日本との併合は餘義ないこととしても一對一の關係で日本と併合してると云ふことは、朝鮮人にとつて餘りに當りが強過ぎる。又餘りに從屬關係が判然し過ぎて苦しい。諸他の事情は別にしても、朝鮮人の感ずる壓迫の感が堪えがたい。而して其の壓迫の感は右の事情から來るのであるから、併合の仲間に支那や其他の諸國を加へて關係を複雑にすれば勢ひ右の事情を緩和する助けとなるであらう。而して此の考へたるや支那初め東洋諸國が國歩艱難の現今に於ては、運動方法次第では全然實現不能とも言へないと云ふ様な思想と、巴里講和會議の際五頭會議の結果、朝鮮人が絶大な希望を託した例の民族自決の提唱が勝利者側には何の關係もなく、單に戰敗國に屈從して居た異民族の自決を許さうと云ふに過ぎなかつたことを知り、白人頼むに足らずと憤つた心持は轉じて白人排斥の心持となり、白人、黃人の對立的爭鬭の豫想より遂に黃色人種が相互に相闘ぐの愚なるを痛感するに至り、白人種の合同ならざるに先立ち、黃色人種の大同盟を完成し、以て黃色人種の日人に對する歴史的鬱憤を晴らさうと云ふ思想とが共鳴して生じたものだと聞く、此の説には朝鮮在住の某將軍が賛成したとかで、一部青年の間に相當有力な説であつたらしい。序に同將軍が此の説の爲に非常なる朝鮮同情者として其れ等青年等に大變評判がよかつたと云ふことを聞いた。更に此の派が二つに岐れ穩和派は日本が盟主となり、北京に國都を設けて支那、朝鮮を手初めに東洋黃色人種の大統一を計らうと云ふ連中で、徹底派は同盟の分子間に

上下の差別を認めると云ふことは自然同盟を鞏固ならしむる所以でないから、日本は敢然右の大理想に跳躍する決心を以て先づ自ら國家を解體し頗る自由なる態度をもつて他國の參加を要望し以て平等なる基礎の上に一大黃色人種國を建設しよう云ふ頗る氣前のよい連中であつた。

少しでも心ある朝鮮人は己が向々種々なる計劃を立て少しでも寛いだ運命を導かうとあせつた。而し其の何れもが實行不能と判明した中彼等は先に論理的に自己の運命を悲觀した時以上に悲しかつた。斯くして彼等は理論的にも實行的にも自己の運命をよくよく轉換する途がないと知つた時、注意深くももう一度日本との提携によつて自己の幸福を招來する道がなかつたかと考へ直して見た。

日本の朝鮮統治を口にする者は、必ず先づ寺内總督の武斷政治を云爲する。其して其れは朝鮮人にとつて堪ゆべからざる者であつたと云ふ。成程一勢に「デモクラチック」に傾いて居る時代に武斷政治の堪ゆべからざるものであることは何人も認める。而し斯の如き意味に於てならば武斷政治を厭ふ心を何も朝鮮人に限つての問題ではない。内地人にとつても英國人にとつても何處の國の人にとつても同様であらねばならぬ。だから朝鮮人の厭ふたのは、武斷政治其ものよりも、もつと根本の日本の同化政策であつた筈である。民情風俗を著しく異にする民族を同化し様と云ふのであるから、其の遣口がどんなに穩かでも同化せられる側にとつては面白いことはあるまい。況して軍人氣質の短兵急に強いつけられては堪つたものではない。我が寺内總督は其の同化政策を徹底せしむべく、一流の武斷政策を採用したものらしい。朝鮮人が永く憤

つて忘れないのも最もである。齋藤總督は之に反して文化政策を標榜して立つた。氣の早い朝鮮人は直に凡ての點について寺内總督と正反對の政治が行はれるのだと喜んだ。苦しい彼等の立場としては少しでも自己の境遇を樂觀視しやうとする人情上無理もない見方である。而し彼等の期待は少からず裏切られた。齋藤總督も同化政策を抛棄しなかつた。而し齋藤總督は「ウッ」を云つたのではない。彼は單に文化政策を高調した迄で自治主義をとるとは約束しなかつた。而して文化政策は武斷政策に對する語で同化政策に對する自治政策と云ふ語と同意義に解すべきではないからである。斯くして現時の朝鮮には齋藤總督の下に自治政策的傾向を帶びつつ漸進的同化政策が行はれつつありと云ふべきであらう。而も此の點につきては何人も異論なかるべく。特に朝鮮人としては人格的に少からず敬意を拂ひ、懷かしみの情さへ有つて居る齋藤總督すらも、日本の根本政策を如何することも出來ず、右述べた様な態度外とれぬのだと知つたとき彼等はハッキリと日本の朝鮮に對して求むるところを感知し得た。其して彼等は、若しかして忘れられたる血路がないかと求めた努力は無駄に終つた。

朝鮮人の獨立運動は第三者の應援がなければあり得ない。第三者の援助は暫く見込がない。却つて日本の立場は是認せずばなるまい。此の前提の下に一わたり朝鮮人の煩悶を考察し自分は愈結論に到達した。

一口に朝鮮人と謂ふても有識階級と無識階級、有産階級と無産階級によつて別人種の如き思想上の差

異がある筈であるから朝鮮人の對日思想と云ふても一樣に論定することは出来ない。自分は便宜の爲（一）無識階級（二）有識有産階級（三）有識無産階級とに分つて考へて見たい。

（一）無識階級の人々の對日思想　田舎人の全部を無識者と云ふことは失禮だが概してそうだから失禮を敢てすることにする。自分は毎度田舎へ旅行するが田舎の人は太平無事である。有産者と無産者とを問はず彼等は平和である。彼等の間には政權が日本にあるか朝鮮にあるかは問題にならない。彼等には私生活の外何物もない。地主は小作米の取立許を考へて居り、小作人は小作料の引下運動許して居る。尤も彼等の中にも獨立運動をやつたものはあつた。而し調べて見ると馬鹿らしい。流石獨立を希望せぬと斷言したものは少ないが、判然獨立を希望すると云ふたものも少なかつた。恐らく其の陳述通り、朝鮮が獨立國になつて頗る目出度いから萬歳を云はうではないかと誰ともなく言ひ傳へた爲、其れは結構と許りで萬歳を連呼したのであり、序に平素氣に喰はぬ内地人の巡查の高利貸を見舞つたのに過ぎないであらう。中に奇抜なのは朝鮮が獨立國になつて、日本に捕虜になつた王様が歸つて來たとか、米國大統領「ウィルソン」が飛行機で御目出度を言ひに來た杯と信じてるものさへあつた。

次に有識階級の對日思想、實際國家の獨立を問題とするのは有識者の仕事である。従て曩に「ウィルソン」に請願して獨立を遂げようとしたのも、外國宣教師にだまされて米國と併合した方がましだと騒いだのも、北京に國都を定めて黄色人種の大合同を爲ようとしたのも皆此の連中であつた。彼等が相應の識見を

有つて居る。いつ迄も實現不能の同一思想に止まつては居ない。彼等は最近何を考へてゐるか。自分は或時自分の生徒の或者との談話を思ひ出した。

自分「朝鮮の青年は進取の氣象に乏しいことはないかね。

生徒「進取の氣象がある筈がないではありませんか。私共には前途に何の希望もないですもの。

自分は此の返答を聞いた時、實際申譯のない愚問を發したものだと思つた。官海に於て實業界に於て、内鮮人は多く同等に待遇せられて居ない。尤も自由であるべき教育の方面に於てすら日本の殖民政策の方針には可也拘束せられなければならない。嘗て寺内總督は朝鮮人を内地人と同等に待遇しなければならぬ理由がわからなかつたそうだ。今時そんな考を有つてゐる者はないけれども何かと朝鮮人は損をし勝である。又殖民地に高等教育を施すの可否及時期につきては英國の印度經營等から持來つた多くの問題があり、必ずしも朝鮮人に仕合せな決論となつて居ない。

自「君達は學校を卒業すれば何に成る積りか。

生「まわ會社へでも勤めるか役人にでもなるのです。

自「大概の人がそんな考を有つてゐるのだらうか。

生「大概の人がそんな考しか有つてまいと思ひます。

自「會社へ勤めたつて、官吏になつて見たところで、大したこともあるまいではないか。いつそ新聞記者に

でもなつて政治運動でもやる氣はないのか。

生「新聞記者になつて見たところで仕方がありません。要するに職業として何を選択するか、の差異に過ぎませんから。現に新聞や雑誌にたづさはつてゐる人達も單に職業として従事して居る迄で、朝鮮民族としての信念とか主張とかを有つてゐる譯ではないと思ひます。

自「そんなら君達がさういふ信念、主張を有つてやつたら如何か、可也面白い仕事だらうではないか。

生「而し朝鮮人としての信念とか主張とかを有つたら、もう少し徹底的なことを考へますよ。政治運動なんか馬鹿らしくなると思ひます。

自「而し君だつて孫秉熙等の獨立運動の爲に朝鮮人の地位が可也向上して來たことは認めるだらう。其の後種々な點につきて制度が朝鮮人に有利に變更せられたし又今日故閔元植等の提唱した參政權運動が當然の主張として認められ、内地人間にも眞面目なる同情者を得て來たことは全く彼の獨立運動の賜と云ふてよからう。君彼の運動は成功だよ。若し彼の運動でもなかつたら參政權運動すらも危険視されてゐるかも知れないではないか。僕は獨立運動に賛成する譯には行かないが、政治運動には大賛成だ。今日朝鮮の青年として政治運動にたづさはり、朝鮮人の權利伸張の爲に努力するのは頗る意義のある生活ではあるまいか。實際僕なんかは或意味に於て君達の立場を羨ましく思ふてゐる。と云ふのは吾々内地の青年は全く無目的に生きてゐるのだ。中には金を貯める爲めにとか或は妻子を養ふ爲めにとか働くと思ふものが、多

くは無目的なんだ。金を貯めようでもない。地位を得ようでもない。――又實際金や地位がそう容易く得らるゝ譯でもないし、――國家は現在吾々の奮起を要求しない。だから吾々の生活には眞劔がない。だらしく一日／＼を送るだけで生きてるのか死んでるのかさへ解らない。之に比べると日本も維新の頃の青年は苦勞も多かつたらうが、生き甲斐があつたらうと思ふ。彼等には國家と云ふ心中の相手方があつた。國家の爲めには何物をも捧げる積りで居たのだから其の生活には目的があり其の行爲には生氣が充ちて居た。君達は丁度彼等と同位置にある。量見の有ち様では随分生き甲斐のある生活が出来るではないか。僕が思へば新聞記者にでもなつて政治運動に没頭したら面白そうだね。

生「問題が全然違ひます。維新の日本青年は獨立不羈の日本の青年でした。彼等は其の計劃が成功した時彼等の理想が實現せらるゝ譯でした、吾々は吾々の政治運動が成功しても尙日本の服従者たる地位から脱することは出来ませぬ。吾々の苦しいところは此處にあるのです。朝鮮人の或者が捨て鉢になるのは此の理由に基づきます。今假りに朝鮮に自治が許されて朝鮮人の地位が内地人と同様に認めらるゝに至つたとしても、吾々の苦痛はなほ残ります。御覽なさい。内地人其れは彼等の間では問題にならぬ愚劣な内地人でも吾々朝鮮人に對する時には尙内地人としての誇を主張するではありませんか。朝鮮人の權利が如何に伸張しても併合關係の存續する限り、吾々は晴れ／＼しい心持になる時はありますまい。かと云ふて吾々は日本の態度を無理とは思はない。日本は朝鮮を併合する外はなかつたのです。只私共は私共が朝鮮人に生れ

たのが悲しいだけです。

こゝ迄來て彼は突然泣き出した。自分は慰める方法がなかつた。彼は尙云ふ。

生「此間御談しました科學や哲學に没頭することですね。私は種々考へて見ましたがあれは駄目です。第一に科學や哲學の研究に國家民族を超越して生活すると云ふことは出來たとしても、一二極めて少數の恵まれた人々に對してのみ問題となり得るので、多數の人々には何にもなりませぬ。第二に假りに哲學者として科學者として世界的な名譽を勝ち得たとしても、丁度あのユダヤ人の學者の様に何となく淋しい亡國の悲哀から逃れることは出來ますまい。若しそうでない人があつたとしたら其の人は標準にならぬ例外的の間です。どの道此の方法で民族全部を濟ふことは出來ませぬ。其の上私は朝鮮人の學問上の能力を疑つて人間です。朝鮮に大なる思想もなければ大なる藝術もないではありませぬか。或内地人が春が來ても梅の花が咲かぬ。秋が更けても百舌が一羽鳴かぬ。朝鮮に詩人の生れないのは當然だと申したのを聞いて苦笑したことがあります。全く朝鮮には唯に藝術思想の點に限らず偉大と名のつく何物もありませぬ。私はかく思ひ廻らす時所詮朝鮮人は民族的に墮落して仕舞つたのではないかと悲しくなります。此間うかがひました様に遺傳學說上獲得性質は遺傳せずと云ふ多數說の半面に生殖細胞は從て生物の本性は偶變によるの外變化しないと云ふことが言へるとしても、朝鮮人は民族的に惡質に偶變して仕舞つたのではないかとさへ疑ひます。或種の朝鮮人に見る虚偽、背信、厚顏無恥の態度を見てはそう悲しまなければならぬ様な氣

がします。

自「そう考へなくてもよからう。其の點は内地人も西洋人も同様さ。同一内地人でも同一西洋人でも、教育も修養もない者の内には全然異人種ではないかと思はれる様な下級な惡質なのが居るからな。ところで此間僕が談したのは専門的に獨歩の地位を得て超國家的生活をする」と云ふことに重きを置いたのではなくて、朝鮮人一般の知識を少くとも内地人に劣らぬ程に高め人格の向上を計つたならば、君達がよく云う内地人からの壓迫の感を受けなくもすみはせぬか。中に少數有爲の學者が出て獨特の名聲を博するような事になつたら、君達の對日本人感情も大分樂になりはせぬかと云ふ意味だつたのだ。

生「私もそう考へました。そうなれば吾々の心持は幾分樂になれると思ひました。吾々は無智な暴力に會ふ時癢にもさわり種々な感情が湧きますが少くとも全體的壓迫の感は起さない筈ですから。

自「單に學問修養の點許りでなく、更に物質的方面につきても内地と同一程度に達し得たら君達の心持は一層樂になりはせぬか。物質的優越と云ふことは何はさて置き力だからね。

生「考へないことはありませんが、そんな事は一つの空想だと氣がつかしました。今日を標準として見てそんな時が來るとは思へないではありませんが。吾々は今日普通學校に内地語を課せらるゝことを教育上非常に不利とし此の制度が改良せられざる限り朝鮮人は内地人と同一程度に進まれぬとさへ思ふて居ります。が而し日本政府としては此の點を改良する心はありますまい。又在鮮の日本の資本は歲々年々増加して

朝鮮を資本的に征服しようとして居ります。貧弱な朝鮮人の資本で之に對抗は思ひも及びませぬ。而も日本政府として之を取締る量見はありますまい。之等弱點の存する限り朝鮮人が内地人と同様の學問智識を得るには財力を維持する等と云ふことは考へるだけでも滑稽です。

自「問題が初めて中心に觸れて來た様に思ふ。それが僕の考なんだ。つまり朝鮮人の智的、物的豊富を期待することの出来る政治を招來せしむべく政治運動をやるのだ。其れが君達の仕事ではないかと云ふのだ。教育の設備上頗る不利な立場にあると言ふなら、其の點の要求をするもよい。内地人の物質的優勢を共にするならば其の拒絶もするがよい。

生」駄目です。それが空想です。吾々には結果が見えすいて居ります。吾々が苦痛とする政策も日本としては極めて正當な政策です。正當であるから日本としては變更の餘地がありますまい。日本が政策の變更をしない限り吾々の右の努力は空想に終るべきです。そこで私等は最後にこんなことを考へました。若し吾々朝鮮人が、日本人があつさり言ふてのける様に、大和民族であると思へたらどんなに仕合せだらうと。而し貴君の言はれる様に吾々は主觀的にも大和民族であると言ふ信念が有てない上に、内鮮人間の言語、風俗、習慣等民族決定の材料たる客觀的差異が餘りに目につきます。遠い昔の代に朝鮮人と内地人とが同一人種であつたと云ふような事は、よし確證せられても、現在の吾々に何の價值もありませぬ。況して加藤清正の子孫が龍山の北梨泰院に居住してるとか、武藏の高麗郡は朝鮮人の子孫の移住したものだとか誰が誰と

婚姻したと云ふ如き事實は私共に何にもなりませぬ。

私「随分苦んだものだね、而して凡ても否定して仕舞つたんだね。さればと云ふて死んで仕舞へましょう。矢張り生ぬるい方法であるかも知れぬが。住み憎い世を少しでも寛ろげると云ふ意味で政治的に働くと云ふのが君達の落付く先らしいではないか。

生「そうかも知れませぬ。又多くの伶俐な人達は皆そうするらしいです。而し私は萬事八方塞がりになつてゐるらしい現存の吾々に今一つの方法が残されてる様に思ひます。若し其の一つの方法がないならば私共は政治運動に猪突することが出来たでせう。

自「つまり國家民族を超越した社會運動のことを指すのだらう。君達の思想は結局そこへ落付かねばならぬのかも知れない。而し其の考の方へ進まうと云ふ考へには日韓併合問題以外の問題が混在して居ると云ふことは承知だらうね。何はさて置き其の方向へ突進する勇氣があるか。

生「其の決心がつかないのです。同じ問題は内地にも有りませう。決心のつかぬ同じ様な連中が内地にも澤山居ると思ひます。

自「すると正しく日本と朝鮮即ち國家對國家の問題のみではなくなるね。

生「結局階級對階級の問題が主になります但其れが徹底的に解決せらるる時景品として國家對國家の問題も片付くと思ひます。景品があるだけ朝鮮人には勵みがあります。

自「まつてくれ、そう云ふと君達は最先に共產主義的或は無政府主義的思想を有つて居たように聞こえるね。即ち只でも此の思想の宣傳をやらうと思つて居た矢先、それが日鮮問題解決の助けにもなると云ふので勵みがついたと云ふようにね。それは一體本當かね。而しどうだらう。有識の朝鮮人の内に本當に共產主義的若は無政府主義的思想を有する者が澤山居るだらうか。自分の地位も財産も抛打つて共產主義的社會若は無政府社會を實現させようと願つてゐる者が澤山居るだらうか。勿論單なる思想としては、こんな思想を有つた連中も居ようが實行しようと云ふ段になれば多くは二の足を踏むものではあるまいか。僕から思へば多くの朝鮮人は併合の苦みに悶えてゐる矢先自分等が共產主義的社會狀態に變つて仕舞ふことから此の苦悶を逃るることが出來ると知つた時、飛びつく様に思ふたが扱よく考へて見れば、必ずしも之を是認するところが出來ないので躊躇してると言ふのが真相ではないのか。

生「……」

自「假りに君がそんな運動にたづさはるとしても、成功の前途は遼遠だね、そして君は金持の子なんだから。」

自分は此の外種々の事を考へたり談したりして彼と別れた。家へ戻つて考へた。朝鮮人青年の思想は可也徹底したところで行き詰つた。もう有識者と云ふような廣い概念の下に一般的な判斷は出來ない。有識者でも無産の者と有産の者とは非常に考が違つて來るであらう。

(二)有識有産者の對日思想　此の階級の朝鮮人はデレムマにかかつてる。彼等は眞面目に理論を辿つて、兎も角も國家を否定する程の社會運動を宣傳し實行することが、日本の羈絆から脱する最良、最近、最後、可能の方法であると云ふ結論に達した。何となれば此の種の運動は近世の世界全般に亘つての一つの思想に根據を有して居り日本始め其の他の有力なる國に於ても相當其の共鳴者を發見することが出來ると豫想し居るからである。―此處にも亦彼等の第三者の力に頼らうとする心が見えて居る。―而し此の方向に本氣に進むとすれば何よりも先づ其の私有財産を拋棄する覺悟がなくてはならない。私有財産を拋棄するとは必ずしも抗みはせぬが、此の事たるや同時に且一般に實行しなければ意味がなく、同時に且一般に實行することは殆ど不能と云ふてよい。誤つて自分一個が單獨に實行したとすれば自分一人の破滅を來たす外何物をも來たさない。假りに一齊に私有財産を拋げ出して大社會運動を起したとしても、其の結果として今日よりよき社會を作り得ると誰が保證することが出來やう。彼等は稍其の先輩として勞農露國を見る。勞農露國の施設が目醒ましい成功を遂げなかつたのは、種々な事情があつたので、必ずしも其の主張自體の缺點と云ふことは出來ないが、後から行く者には何となく氣づかいな先例である。ああいう狀況に陷る危険があるとすれば私有財産を拋棄して必死の社會運動をやつて見ることも考へものだ。元來歴史上先例のない大變革は出來得べくんば漸進的にやるべきものではあるまいか。即ち全世界に於ける思想が執れ之を維持すべき道具立に或程度の見込がついて後始めて實施すべきものではあるまいか。更に彼等はこ

う考へる。

特に吾々にとつて心配なのは有識無産者の心持である。彼等は日本に屈從して居ると云ふことを厭ふと同様に、否彼等が西伯利亞邊の過劇思想の洗禮を受けた今日は日本を厭ふ以上に吾々有産者を目の仇にして居る。彼等の社會運動は必ずしも日本のみを目標として居るのではない。然るに吾々は日本のみを相手として居るので全世界的共產化杯は何れかと云へば反對である。従て彼等の社會運動と吾々の其れとは其の性質に於て著しい差異がある。換言すれば吾々の社會運動は日本の優越を否定する手段に過ぎないのであるに、彼等の社會運動は何よりも先づ無産者司配の世界建設にあるので、日本に對する關係は僅に其の手段たるに過ぎないのだ。彼等の間に於ては國家とか民族とか云ふ觀念は大分薄らいで居る。然らば吾々は彼等と中途迄は一緒に行かれるが、終局迄同伴することは出来ない。否々中途迄同伴することさへも危険である。何となれば國家を破壊した時吾々の彼等に對する優越は勿論平等さへも失はれるであらうから。

更に冷靜に考ふれば日本人の壓迫に堪ゆべからざる苦痛を感じて居るのは吾々極めて少數の者だけだ。無識者の大部分は其の有産者たると無産者たるとを問はず吾々の如くに苦んでは居ない。寧ろ彼等は苛^か歛^{れん}誅^{ちゅう}求^{きゅう}の甚^しかつた李朝時代よりも幸福な月日を送つてるとも云へる。吾々の輕舉盲動が吾々の破滅を導く許りてなく、朝鮮人の大部分である彼の平和なる、無識者の平和を破壊しないとは云へない。其の上思想

的には容易な社會運動も實行的には仲々六つかしい。其の對象とせられてる無産者さへも必ずしも之を要求してるとは言ひにくし。

人は吾々の態度を生ぬるいとも虚偽とも云ふかも知れないが吾々としては今日矢張り日本と併合を維持しつつ漸次政治的に吾々の地歩を獲得して行く外はないのだ。

(三)有識無産者の對日思想此の連中の思想が一番徹底して居る。自分は此の文章の初めに朝鮮人は自ら矢表に立ち、血を流して自己の立場を主張し得ない民族であると述べたが、此の不徹底な彼等も近世人類の上に注がれた民主主義的、社會主義的思想には尠からず影響せられた。爲に彼等の民族性に多少の徹底味を加へて來たらしい。否民族性は變らぬかも知れないが人間として思想に變化を來したことは疑ないらしい。又一つには右の思想が日本と併合して居る彼等の苦境に光明的のものであつたので其の影響が多かつたらしい。兎に角朝鮮人の有識者が右の思想を歓迎したことは確かであり、之によつて併合問題を解決しようとしたことは確であつた。即ち朝鮮人全部が否國家的になることによつて日本の國家をも破壊しようとしたのであつた。而しながら右述べたような次第で有識有産の人達が別異な態度をとらうとして以來、此の種の宣傳實行に従事することは、有識無産者の單獨の仕事に残された。而して論理の不徹底な爲か宣傳上の策略の爲めか知らぬが彼等は此の種の思想としては景品であるべき日鮮問題を最先に振廻はして可也盛な活動を見せて居る。現状を維持して何の希望もなく動いて何等失ふ虞なき彼等は事實日本官憲を恐

る以外に何物をも恐るる必要のない連中である。だから其の勢が貧弱である割合に其の態度が徹底して居る。而して此の連中は永久に絶対に其の運動を廢しないであらう。

が而し彼等の思想は其の本來の性質上有識有産者が想像したやうに何等かの意味に於て國際的性質を有つて居る。此の傾向は彼等が西伯利亞の過劇思想に觸れて以來益濃厚になつて來た。否濃厚にならざるを得なかつた。何となれば「チタ」政府の軍隊は武裝朝鮮人が單に日本に楯をつく一つの不逞團體である間は、之等の者達が想像したやうに同情を有つて呉れず、却て彼等の武裝を解除しようとし、彼等の國際的共產主義化を強要したからである。従て彼等に對する關係に於て日本は朝鮮の併合者としてではなく彼等の國際運動の邪魔物であるが故に憎いと云ふことになつて來た。

彼等が此の如き思想の實行者である限り、彼等は同じ朝鮮人でも有産者は凡て仇と見ねばならなくなつた。日本人でも無産者をば味方と見ねばならなくなつた。今や彼等は日本の西伯利亞撤兵と共に直接することになつた勞農露國の思想運動を彼等の詭向の同伴とし、在鮮千數百萬の同胞無産者を第一に其の運動の對照としようとして居る自分は間島邊に出沒する所謂不逞鮮人を此種の連中ではあるまいかと思つて居る。恰もよし舍音制度の弊に困しむ地方無産の小作農民は最早何物をも失ふことなき迄に困厄して居る。不知不識の間に社會制度を呪はうとして居る。自分は朝鮮にも多分に漏れず此の邊から徹底的社會運動が起つて來るだらうと思ふて居る。日本の朝鮮統治の大難關は此の邊に潜むと云ふてよからう。

而して何時かは朝鮮が二派に岐れ有産者は日本と共に無産者に對抗する日が來よう。次には日鮮を通じて最後には全世界を通じて貧富兩階級の横斷的争闘にもならうが今日に於ては僅に其の芽ばえがある許りである。

此の種の運動者の力、それは今日微弱であつても決して輕々視することは出来ない。何となれば見當を誤つて居ないからである。又此種の運動、それは必ずしも危険であると云ふて無理解に押へつけて仕舞ふべきではない、何となればそれが自然の推移であるとすれば無理解なる壓迫は却て危険であらうから。

要するに朝鮮のことは今後暫くは有産者の代表である、有産有識者が支配するであらう。彼等は日本の注文通り日本と妥協し生ぬるい政治運動に朝鮮人の地歩を獲得しようとして努力するであらう。

無産有識者の運動は、それが如何に英雄的に見えようとも未だく貧弱で、彼等の運動が世界的に成功する時迄は奏功することはあるまい。従て此の方法によく日鮮問題の解決も其の時迄は望がない。

若し夫れ無識者に至つては何國の人も同じように有識無産者の警鐘に拘らず、はかばかしい覺醒も急はしまし。

之に於て自分は思ふ。朝鮮獨立運動に關係あるらしく見ゆる凡ての運動中現存國家に對して最も危険なものは共產主義的色彩をもつたもののみである。たとへ現在に於ては其の勢力が微弱であつても將來の活躍は著しいものと豫想せらるるから、之が對應策は餘程注意し研究するところがなくてはならぬと思ふ。

共產主義的色彩をもつもの以外のものは大して恐るべきものはない。例へば爆彈の投擲だとか、ピストルの狙撃だとか云ふ種類に至つては朝鮮人の對日運動方法として有效だとは言へない。誤解してゐる者の爲めに一言しよう。

例へば爆彈による名士の暗殺の場合を考へる。暗殺せらるる者は、必ずしも朝鮮人に對し他の者以上に冷酷であつた爲ではない、只其の地位に居た爲めである、其の地位に居た爲に暗殺せらるるものである以上個人的怨恨の有無は條件になつてない場合が多い。既に其の人を怨むにあらずして其の人を暗殺する所以のものは暗殺其のものを目的として居ないからである。故に彼等が其の人を暗殺するは、其の人を暗殺するにあらずして、其の地位を暗殺するのであり結局日韓併合を暗殺するのではなくてはならぬ。彼等は此の大きな暗殺を遂ぐる爲に怨恨なき個人の暗殺を餘義なくせられたと云ふのでなくてはならぬ。若し此の如くんば暗殺の是認者ならぬ人々も彼等の心情を酌む事は出来る。然るに若し此の大目的なく個人の暗殺を敢てするならば人々は彼等の無智を咄ふに止まらず彼等の慘忍性を非難して止まないであらう。爆彈は其の爆發が國際的輿論を喚起し得るやうな狀況に於て投擲せられねば右の如き大目的を達成する威力を發揮しない。而して列國が日韓併合に對すること前段説示した如くである。然らば今日に於て日鮮問題の爲に爆彈を投げる如きはノンセンスと云はねばならない。

最後に自分の朝鮮統治策を述べたい。尤も上來説明せるところを精細に注意して下されば全部了解して

頂けるとは思ふが一纏にする方が便宜である。凡そ利害を異にする民族の調和は民族以上の團體概念をもつて來なくては仕末がつくものではない。例へば犬と猿とは誰が見ても幾度見ても最も仲の悪い犬と猿とである。犬を教育して猿にする事も出來ねば猿に遠慮さして終始犬の眞似ばかりさしておくことも出來ない。犬にも猿にも各其の個性があるからである。此の個性を蹂躪して犬に味方したり猿に同情を寄せたりするのは愚の骨頂である。而し犬も猿も動物たるに變りはない。動物と云ふ概念に統括せらるる時彼等はピッタリと其の處を得てビク動きもしない。昔々桃太郎は此の呼吸を呑み込んで犬と猿とを適所に使つて鬼が島を攻略した。桃太郎の成功は犬と猿との個性を認め各其の處を得せしめ、其の間不平なからしめたにある。彼が若し取つて來た寶物を分配する際不公平を敢てしたならば彼は恐らく犬をも猿をも失つたであらう。而し此處迄は彼の伽倻に書いてない。

日本人と朝鮮人。如何にすれば其の所を得るか。日本人を偏愛してもいけない。朝鮮人を偏愛してもいけない。然らば兩者を絶した團體概念は何か。人類!! 然り人類愛を高調することなく日鮮問題を論ずることは絶対に不能である。(人類愛。廣くすれば全世界に及ぶべきものであるが差當り上述の因縁によつて結ばれた日本朝鮮の地域に在住する人類相互の愛と限定しても差支へない)

日本人と朝鮮人。合一して考ふる時、正に地域を同ふし、利害を同ふする人の集りである。此の人の集りが同一人類意識の自覺の下に各他を認め、平等の運命を確信する時、日鮮問題は問題でなくなる筈であ

る。

此の方向への歩みは既に明かなるが如く、内鮮兩民族平等の大本を確立することから始まらねばならぬ。之に於てか日本政府は先づ何は措いても兩民族間に存する形式上、實際取扱上、一切の差別を撤廢しなくてはならぬ。而し之は寧ろ容易なことで此の點だけなら早晚實現せられよう。自分は更に内地人、朝鮮人間に存する智識上及物質上の差異が自然的にもたらず不平等を氣にして居る。何となれば此の不平等の存する限り政府よりする平等待遇の原則が確立せられても朝鮮民族の不平は毫も緩和せられないと思はるからである。故に日本政府は兩民族間に存する形式上實際取扱上の一切の差別を撤廢する外更に進んで兩者間の智識上物質上の差異減少に全力を注がねばならない。具體的方法としては朝鮮人の修學に對するあらゆる便宜をはかると同時に内地資本家の資本主義を強度に抑制し併せて朝鮮の産業開發につとめねばならぬ。若し右の點にして等閑に付せられんか爾餘凡百の施設は寸效を奏しないことを斷言する。

附 論

自分は本論に於て白大鎮新天地事件に觸るることを約束して置きながら、其の點について一言もせず本論を終つて仕舞つた。實は新天地事件を聞知した時白大鎮は似せ物であるとの談であつたので附論として取扱ふ積りであつた似せ對日思想家の條りに其の考察を遂げる積りであつたからだ。然るに實際白

大鎮に會つて見ると同人を似せ者と斷するのは少々酷に失すると思はれるし、かたがた似せ對日思想家を當面の問題として論じなくとも當時自分が某紙に發表しようとして果さなかつた白大鎮の誤解と題する左の一文を添付することでも自分の目的は十分達せられると思はれるし、其の上自分が本文に於て一言すべく且之なかりしが爲或は誤解を招きはせぬかと心配になる點、(一)本論に於て日本は日韓併合の維持を必要とすると言ふたのは必ずしも現在通りの状態の維持を必要と言ふ意味ではなくて、日本の朝鮮に對する或種の權利の維持を必要と言ふ意味であると云ふこと、(二)自分が民族主義の謳歌者でないこと、の説明にもなると思ふから添付する。

「白大鎮の誤解」

大正十二年一月二十二日白大鎮は、大正八年制令第七號違反等の被告事件の被告人として、京城覆審法院に於て取調を受けた際、次の様な申立をした。

『自分は某日本人が中野正剛氏に宛てた書面の中に朝鮮は獨立せしめねばならぬのではあるまいか、其の方が朝鮮の爲日本の爲よりよいのではあるまいか。と云ふやうな意見が見え又自由討究社の細井肇氏の論文中にも同趣旨のものが見えたので。内地人中にも朝鮮の獨立を是認して居る人があることを知り、朝鮮の獨立問題を論文として取扱ふことは一向差支へないものと信じ問題の論文を草したわけである』と而し

て尙彼は右の如き意見が内地人間にも見えるやうになつたのは全く最近の世界思潮が民族自決主義を是認し高調する結果であると考へたらしい。最後に彼は右内地人の朝鮮獨立と云ふことを絶對無條件の朝鮮獨立と云ふ意味に解して居るらしかつた。自分は此の最後の點は彼の誤解であると信ずる。日本が何故朝鮮を併合するに至つたか。其の併合を維持して居るか。又若し今日朝鮮が無條件に獨立したら日本に如何なる影響を與へるか。と云ふこと考へて見れば直ぐ解ることと思ふ。絶對に無條件に獨立したる朝鮮は其の主權の内容として日本人の朝鮮入國を禁止することが出來、日本以外の他國と協力して半島及大陸に於ける日本の勢力を驅逐することが出來ねばならぬ。假りにそういう場合を想像して見れば其の結果日本が人口問題其の他に於て困厄せねばならぬことは別としても、形勢の轉換如何によつては、明治時代のやうに其の存立迄も脅かさるるに至るかも知れない。然らば日本は必ずしも現在のまゝの併合状態を維持する要はないが、朝鮮に對し或種の權利を留保して置く必要がある筈である。茲に於てか日本人の所謂朝鮮の獨立には何等かの權利留保は常に其の前提となつてると見るを妥當と思ふ。之に對し或は「朝鮮は其の困厄時代を救済し指導し其の要求を待つて之を獨立せしめた日本の恩を忘れぬであらうから、朝鮮人は朝鮮に於て日本の利益が失はれるやうな忘恩行爲を敢てしないであらうと言ふかも知れぬ。けれ共此の考には何人も賛成が出來ない事と思ふ。扱自分が本文を草する必要を認めた理由は寧ろ之れから先にある。朝鮮の絶對獨立を主張する心は民族心である。民族心に基いて朝鮮の絶對獨立を主張する朝鮮人は日本人の民族

心をも認めねばならぬ。従つて朝鮮が朝鮮民族の生存發展の爲に其の絶對獨立を主張するならば日本は日本人の生存發展の爲めに其の半島政策、大陸政策を必要とする主張するであらう。民族が各民族心に凝結して一步も踏み出すことが出来ないならば、兩民族は各排他的の民族心を露骨に發表し、永久の水掛論を始める外あるまい。自分の考では利益の相反する兩民族の調和は民族以上の團體概念を持ち出す外あるまいと思はれる。故に日鮮問題を民族心の高調によつて解決しようと言ふ人の量見が解からない。彼白大鎮も民族至上説を主張する以上這般の關係を考へ違へてゐるのではあるまいか。之に於てか自分は民族心を超絶したる人類愛を高調する。程度の如何は各人見るところを異にするとしても人類愛を加味することなく日鮮問題を解結することは木によつて魚を求めるよりも困難と思ふ。但し超民族的思想超民族感情が著しくなり現代に於て此の關係を考ふる時幾多の疑惑と混亂とか起ることは是非もない。

自分は最後に朝鮮人諸君に露骨に明言し眞心から御願することがある、『日本人にして日本の利益よりもより多く朝鮮人の利益を考へて居ると云ふ日本人があるならば、其の日本人は不徹底な愚物でなければ爲にせんとする似せ物でなければならぬ。人は近き者より、より以上に遠き者を愛すべき理由もなければ必要もない。諸君こんな連中に迷はされてはいけぬ。吾々は諸君を吾々と同様に愛さう、諸君もどうか諸君と同様に吾々を愛してくれ』(大正十二年一月)

續朝鮮人の對日思想

何れが其の本流

私は前の論文で、朝鮮人の對日思想の一斑を述べたが、其の後私の手に這入つた新しき材料に照して見て、先の見解の誤つて居なかつたことを確かめ得たので、大に安心した。仍て當時多少不安があつた爲に、踏み込む事をさけた點に、足を入れて見たいと思ふ。

こんな關係上此の論文を先の論文の續きと見るべきであるが、其の内容から見れば朝鮮人の對日思想中何れが其の本流であるかを取扱ふつもりであるから、便宜のため上の様な題をつける事にした。

朝鮮人の對日思想を、階級（有産階級、無産階級）意識、階級争闘の烈しい今日に於ては、單純に民族心理を根據として一律に論定する事が出来ない。民族心と階級意識とが種々に交錯して種々の思想が出て來るやうであるが、大體から言ふと（一）政治的に朝鮮民族の權利の伸張を期する思想（二）右の政治的運動主義を否定し、自ら先づ共產主義化して日本の共產主義化を促進し、以て國家主義を顛覆せんとする思想（三）共產主義を民族運動に利用せんとする思想とに分つことが出来る。

右の内（一）は主に有識有産者の思想で（二）（三）は有識無産者の思想と見てよい。便宜の爲め私は（一）を

政治主義(二)を共產化主義(三)を折衷主義と名づけて置く。

扱有識有産者が(一)のやうな思想をもつに至つた原因及其の思想からぬけ出る事の出来ない理由は、單簡ながら先の論文で述べた積りであるから略す。只一點注意すべきは、所謂有識有産者の内容が併合當時と大分變つて來た點である。即ち併合當時有識有産者として朝鮮を支配して來たものは李朝時代の所謂兩班階級の者であつたが、今日政治運動に奔走してゐる者は必ずしもそうでなく、無産者の所謂紳士閥と稱する有識有産者の階級であつて、彼等の内には兩班ならざる者も混つて居ようし、今後は益其の割合が多くなるだらうと云ふ點である。——三年前自分が渡鮮した當時或人が、『朝鮮總督府の新政に喜ばない者は主に兩班階級の者である。總督府の階級打破政治の爲に、彼等は從來の特權を喪失したので、却つて總督府を怨むやうになつた。之に反して多數平民は公平な新政を喜んで居る』と、誠にやかに談すのを聞いた事がある。多分兩班の權力が紳士閥に推移した右の關係を指したものだと思ふが、蓋正當なる著眼とも思はれぬ。

次に有識無産者の思想は共產化主義と折衷主義とに岐れた。而して共產化主義の特色は、民族思想を全然拋棄したと云ふ譯でもないが、階級意識に目醒めて見れば、其の方が更に重大な意義のある事を發見した結果、同時に又共產主義的思想の徹底は、當然民族思想を消滅せしむるものだと思ふ結果、暫く民族思想は抑壓して、専ら共產主義の宣傳實行に力をつくさうとする所に存し、折衷主義の特色は、朝鮮

の獨立運動に重きをおき、共產主義をば單に其の手段として用ひやうと云ふ所に存する。

私は進んで右三思想の中何れを本流と見るべきかを論定して見度いのであるが、其の前に私の先の論文に掲げた『朝鮮人の一番堪え得ずとする點は、日本人より受くる壓迫の感でなくてはならぬ、此の點に對する遺憾なき方法が講せられざる限り、朝鮮問題は解決せらるゝものではない。従て日本政府は之れが對策として、内鮮人間に存する形式上及實際取扱上に於ける凡ての差別待遇を撤廢し、引いては智識上物質上に於て、内鮮人間に存する懸隔を消滅せしむる事につとめねばならぬ』との結論を吟味して見る必要を感じる。即ち内鮮人間に存する形式上及實際取扱上に於ける差別待遇の徹廢を要求する心、智識上、物質上、内鮮人間に存する懸隔の消滅せしむべき方策を講せよと要求する心は凡て民族心であるか否か』と云ふ事を吟味して見る必要を感じる。朝鮮人が内地人と同様に形式上及實際取扱上に待遇せよと要求し、内地人と同様の修學上の便宜を享受しようとするのは疑もなく民族心に基くものと認める事が出来る。問題は、内鮮人間に存する物質上の懸隔を少なからしめよと云ふ要求が、民族心に基いたものか否かと云ふ點である。

先の論文に述べた通り、内鮮人間に存する物質上の懸隔を少なからしめんとせば、勢ひ朝鮮に流入する内地資本に對する強度の監督と、朝鮮産業の排他的保護獎勵とを實行しなくてはならぬ。果して然るとして之れが朝鮮民族としての要求と云ふ事が出来ようか。私には之は朝鮮の有産者の要求で、無産者の要求

ではないと思ふ。或は朝鮮に流入する内地資本に對する強度の監督と云ふ點に重きを置いて、之明かに資本主義に對する制限の要求ではないか。無產者の最も喜ぶ所でなくてはならぬと云ふかも知れぬ。而し思ふに間違つてゐる。内地資本に對する強度の監督を爲す所以のものは、朝鮮産業を保護する爲めである。朝鮮の産業保護の恩惠を受ける者は有產者である。無產者も間接に――或は賃銀の高騰等によりて――多少の利益を受けようが、之等の利益よりも、産業發展に必然的に附隨する無產者の損失は更に大でなければならぬから、結局無產者としては、朝鮮の産業保護に大して感謝すべき理由をもたぬ。茲に一人の純然たる無產者をとつて考へて見よ。彼を物質的に壓迫する者が内地人であると朝鮮人であるによつて、受ける感じにそれ程の違ひがあらうとも思はれぬではないか。況んや無產者は、有產者に比して民族とか國家とか云ふ觀念の薄さを常とする。朝鮮人の極めて少數の一部、彼等と物質的に利害を異にする一部が保護せらるゝのを見て、彼等が喜びを感じよう道理はないではないか。更に一步進んで辛日鎔は、『紳士閥の政治的權力の土臺となれるものは謂ふ迄もなく彼等の經濟的支配である。されど此の經濟的支配を土臺とし政治的權力を得れば、其の政治的權力はまた經濟的支配の基礎となる』と彼の共產主義的な立場から經濟と政治との關係を説き、當然の結果として來るべき紳士閥の物質的發展を恐れて居る。

此に於てか私は、物質上に存する内鮮人間の懸隔を消滅せしめようと云ふのは、自ら資本主義の信奉者でありながら、よく大なる資本主義の敵を迎へてうろたえた朝鮮人有產者の叫びに過ぎないと斷ずる。従て私

は右の叫は決して民族心に基いたものでないと信ずる。私は右の如く物質平等要求の叫を民族心に基いたものでないと云ふ事の説明の爲に随分手間をとつたが、或はアツサリと、『朝鮮人と内地人との富の程度を比較する時、全體論としては内地人の方が富の程度が高いと云へるかも知れないが、一人一人の個人を捉へて見れば、内地人必ずしも朝鮮人より富めりとは云へない。而して貧しき者が富める者より受くる壓迫の感じは、個人的に對立した時に於て感ずるものなるが故に、朝鮮人の凡てが内地人の何人よりも貧乏だと云ふのでない以上、朝鮮人は内地人の壓迫を感ずるとは云へぬ、只朝鮮人の貧民は内地人の富から壓迫の感を受けるとのみ言ひ得る。而して彼等は内地人の富者から壓迫の感を受けると同様朝鮮人の富者からも壓迫の感を受けるのであるから、此の壓迫の感に民族的差異に基く分子が含まれて居るとは言へぬ』と言ひのけて差支へないかも知れぬ。どの道、物質的平等の要求は、民族心に基くものではないと思ふ。故に此の要求を民族運動の目的とする事を避ける、念の爲めに一言すべきは、私が右民族心に基かざる一部朝鮮人有産者のみの要求を、何故容れよと日本政府に迫つたかについてである。

理由は甚だ單簡で一言にして盡さる。私は朝鮮の現在を支配するものは、資本主義の信奉者たる有識有産階級であつて、其の者の要求を無視して現在の日鮮問題を論ずる事は不可能と考へたからである。

扱これだけ斷つて置いて即日鮮共民の理想を實現すべき方法は、内鮮人間に存する、形式上及實際取扱上に存する一切の差別待遇を撤廢するにある。而しながら此の差別待遇と云ふ内に物質上の問題は含まれ

て居ないと云ふ事を斷つて置いて、私は前掲三つの思想の批評に移る事とする。

第一 政治運動主義

日韓共存の理想を實現すべき方法としての右の見解が誤つて居ないとすれば、朝鮮人の民族的要求は、内鮮人の形式上、實際取扱上の平等待遇でなければならぬ。然らば問題は、所謂有識有産階級の政治的民族運動の目標たる、朝鮮人の帝國議會に對する選舉權、被選舉權の獲得、或は朝鮮の自治は、何時か實現せられる時があらうが、又其の實現せられた曉には、内鮮人の形式上及實際取扱上の平等待遇が實現せらるであらうかと云ふ點である。

私は凡て之等を肯定する理由があると思ふ。昔國民全體は征服者と被征服者にと分ち、兩者の間に著しい待遇上の差別を認めて平氣であつた時代の理論は、人道の高調せらるる今日に於ては通用しない。故に其の初め征服被征服の關係に於て同一國民なるに至りし諸民族も、今日に於ては次第に平等の權利を享受しやうとして居る。況や兩民族間に存する諸種の關係上、併合を餘義なくせられた日鮮兩民族の間に、差別待遇の存する如きは、現代の思想傾向以上として排斥しなければならぬ。又之を功利的に考へても、差別待遇の結果は決して日本の利益にならぬ。一千七百萬の人の集りたる朝鮮民族の希望を無視して日本今後の發展を望む如きは全く不能である。果せる哉近來に至り、幾多の内地人の有識者は、或は朝

鮮人に參政權を與ふべしと言ひ。或は朝鮮に自治制度を實施すべしと論議するに至つた。或は朝鮮問題を頗る厄介視して、今日の儘推移するに於ては、他日舉國一致を要するが如き大事件勃發の際、朝鮮問題は日本の一大難問題となるに至るであらうと心配してる人々もある。此人々も近き將來に於て、民族的平等を認むる以外に日鮮問題を解結する方法のない事を知るに至るであらう。最少限度に於て、朝鮮人の政治的民族運動を是認しない日本人はないと云ふてよい。而して政治的民族運動の最後の目標が朝鮮の自治なる事は論理上も傾向上も明かである。然らば政治運動は許して居ながら自治制の實施をやらぬ日本政府は單に其の時期にあらずと見えるに過ぎないであらう。

事態を此の如く觀察して來ると、朝鮮人有識有産者の政治的民族運動は決して失望すべきではないと思ふ。以上私は日鮮兩民族の民族的平等を認むべき必要と可能とを述べた。必要にして可能ならば直に實行すべしである。時期未だ早しとは何を意味するか。時期尙早説を爲す人は『内鮮人平等待遇實施の時期は、朝鮮人が、平等待遇の結果につき、日本に、何等危険の感を懷かしめないだけの、擔保的確信を與へた時に到來する。其の時迄は時期尙早である。試に今日朝鮮に徴兵制をしき、朝鮮人に武器を與へたとする。日本は果して安心して居らるか。朝鮮人は果して反亂を起すような事はあるまいか』と危ながる。成程危険な様な氣もする。而し凡てにつき平等待遇を喜んで居る朝鮮民族を背景として考へて見ると、危険でない様な氣もする、俄然朝鮮人はかく云ふ。『それは内地人の杞憂に過ぎない。試みに内鮮人平等待遇の大

本を確立せよ。そこに却つて日本は、頼もしき一千七百萬の同胞を見出すであらう。吾々一切の不平と不満とは、不平等待遇から来る。日本人よ速かに吾々を平等に待遇せよ。そこに吾々は平等の義務と責任とを感じ、共同運命を負へる友として御身等に親しむであらう』と。成程そうのやうな氣もする。一體繼母が繼子の偏見を訴へ、繼子が繼母の偏愛を訴ふる時、どうしたらよいのだらう。母子關係を結ばねばよかつたと云ふても、もう遅い。世間の手前子供を殺して仕舞ふ譯にも行かない。思ふに、成功するかしないかは別として、繼母が偏愛は捨てて、我が子の如く繼子を愛する事は、確かに最良唯一の方法でなくてはならぬ。事態は行き詰つて居る。私は日本人の大跳躍を要求する。忍ぶべからざるを忍んで内鮮人間偏愛を捨てることは、確かに日本にとつては一つの大跳躍であらう。私は今日本に夫れを要求する。若し日本に此の決心がないならば、朝鮮問題は益惡化し、私が次に述べようとして居る思想の傳播を早からしめ、手も足も出ぬ時期が来る事を覺悟しなければならない。

私が内鮮人の平等待遇を力説する時、内鮮人平等待遇の實が擧つても、朝鮮人の不平不満は全部消散するものではないと、茶々を入れる人がないとは云へぬ。私自身も亦密に之を憂ふる。が而し夫等不平不満の極めて少數少量のみが民族的感情に基く。而も其の民族的感情に基ける少數少量の不平不満は、併合の理由に對する見解の相違に基くものであつて、併合存續を前提とする以上、何とも始末のつかぬもののみである。大部分は民族的感情に基かざる要求、例へば階級心——總括的に言へば内地人の方が、朝鮮人より

も富の程度が高い爲に。或は朝鮮人有産者が内地の資本主義に對する戰術として猜くも、民族心を僞用する爲に――基くものと思ふ。此の部分は少しく丁寧に考へれば直に民族心に基かざる事を發見出來ると思ふ。私は辛日鎔の論文の一部分を引いて私の議論の助としやうと思ふ。

『吾々の階級争闘は國際的に發展す。日本人は悉く朝鮮總督府員の如き、野蠻なる者のみに非ず。自覺せる無産の大衆あり。吾等は此の自覺せる無産の大衆日本人を國際戰の戰友とし、彼等と協力す』と云ひて、彼等の敵とせる所は、民族を異にせる日本人全體にあらずして、階級を異にせる有産者たる日本人なる事を明かにし。更に『無産階級運動が、民族運動を争闘の武器として使用すると否との問題は、歴史的觀念の遊戲、又は國粹的觀念の迷信を以て決定すべきに非ず。』と述べて、有識有産者の詐術にかゝり、民族心に熱して、知らぬ間に彼等の階級戰の犠牲にならぬやうにと警告して居る。

私は第一思想の批評を終るに當り、朝鮮人の修學につきて一言せねばならぬ。從來朝鮮人の向學心は非常に低かつた。然るに今日に於ては可也旺んになつて來た。諸種の事情に基くであらうが、内地人と同等にと云ふ民族的感情に勵まされた點を見のがす事は出來ぬと思ふ。朝鮮人の知識的向上と云ふ點に重大な（先の論文參看）望をかけて居る私は、此の現象を大變喜ばしいと思ふて居る。そこで私は卒直に朝鮮の富豪に教育資金の寄附を希望する。もとより國民の教育は國家が負擔するを理想とする。而し國家は經費の關係上、仲々此の理想を實現し難い。かるが故に何れの國に於ても多くの私立學校の設立を見る。總督府

の三面一校主義さへ完成せられて居ない今日に於ては、一般人民が望む各面一校の實現を見るは容易の事ではない。朝鮮の資産家の寄附を要望する事は諸外國の比ではない。だから諸君が若し、本當に民族の爲を思ふならば、疑惑のかかる政治運動に熱中する前に教育費の寄附でもして見たらよからう。識者は諸君の前途を豫言する。『若し今日の儘にして推移せんか、朝鮮の富豪は、一方内地の資本に侵略せらるると同時に、他方朝鮮無産者に掠奪せられて、早晚悲惨な運命に行き會ふであらう』と。私は此の關係を今少し細かく述べたいが、本論文の趣旨と餘り遠ざかる事を恐れて、今日は只ヒントを與ふるに止めて置く。

第二 共產化的思想

人或は此の種の思想が朝鮮に現在するかを疑ふ。其の人々の爲に左の事實を報告しやう。大正十一年十二月チタに開かれた共產黨大會に参加した朝鮮人の團體の内に、林炳極、李東輝等の率ゐる、高麗共產黨と、南萬春、吳河默、文昌範等の率ゐる、全露共產黨とがあつた。兩黨は従前から見解を異にして折合はなかつたから、此の會議を期とし、大局の利益の爲に、相提携しやうとしたのであつたが、高麗共產黨は、全露共產黨を責むるに、同黨が徒らに露國の走狗となり、本來の目的たる獨立運動には、何等の定見なく、神聖なる獨立軍軍人を、猥りに勞農軍司令官の願使に委せ、彼等の犠牲となせるを以てしたるに對し、全露共產黨は、高麗共產黨が獨立運動にのみ重きを置き、共產主義信奉の念却つて薄さを難じ、互に論

難せる結果、豫定の提携を遂ぐるに至らなかつた。右兩派の内全露共產黨の思想は、正に私の今取扱はうとする思想である。右は滿洲、西伯利亞に於ける思想であるが、朝鮮内にも同様の思想を發見する事が出来る。其れは最近、雜誌新生活で有名になつた、辛日鎔、金明植等の思想である。辛日鎔の書いた、民族運動と無産階級の戰術、と題する論文の一節に、『民族的獨立を、何人よりも切實に希望せる吾等は、いつれの方面より見るも其の實現に努力するを廻避せず。然れ共吾等の良心は、紳士閥民族運動に協力し能はざる事を自白す。何れの途を行くとも吾等は紳士閥と同行せず。之は何れの點に於ても吾等の敵なるが爲めなり。吾等が彼等の民族運動に協力せざるは、國際的奴隸狀態(國家的奴隸狀態の意)に對する無關心の結果にあらず。其の奴隸狀態を意識的に根本的に破棄せんとする、争闘(階級争闘の意)の戰術に基き、彼等との協同を拒絶するものなり』とある。多少意味の不明な點があるが、前後の關係上要するに、彼等は明白に、私の所謂有識有産者の政治的民族運動を否認し、階級争闘の戰術に基いて、即共產主義的思想の實行によつて、階級争闘を解決し、同時に民族問題をも解決しようとするものである事は視はるる。然らば之れ亦正に私の今取扱はうとする思想である。

紳士閥の民族運動者が、世界に於ける國家の對立を認め、その一つたる日本に朝鮮が併合せられたる結果、日韓兩民族は、共同生存の運命を負はされた事實を觀念し、併合を動かす事の出來ぬ事實と見て居るのに對し、共產主義の思想家は、全人類愛の實現を理想とし、人と人との間に如何なる人爲的差別待遇の存

在する事をも許さない。彼等の思想よりすれば、利害を異にする國家の對立は許さるべくもなく、從て之を前提とせる民族併合の如きは、自ら傷け合ふに非ずんば他を傷くるものとして當然排斥せられねばならない。彼れが現實に而して可及的民族平等の實を擧げようと努むるに對し、此れは理想を高唱して現實的些細な例外をも許すまいとする。紳士閥が實行不能の愚論と罵れば、共產化主義者は一時を儉安して大局を忘れたる迂論とやり反す。

冷靜に考へて見れば、民族問題解決方法としては、紳士閥の其れよりも此の輩の思想の方が徹底してる。私は曩に紳士閥の政治的民族運動の成功を信ずると云ふた。而して其の徹底的成功の曉は——即内鮮人間の無碍の平等が實現した曉は、やがて國際的否全人類の平等の實現する時であつて、共產化主義者の理想とするところと毫も差異なきを信ずる。而し同時にまた、此の如き理想的成功は單なる理論に過ぎない事も認めねばならない。共產化主義者の理論よりも更に迂遠なる理論である事も認めねばならない。何となれば、今日の國家思想は往往人類愛を蹂躪して働く場合があり、而して紳士閥の思想は、現在の國の存在を前提として居るからである。從て紳士閥の政治的民族運動は實際的には或る程度迄しか實現せらるる事は出来ないからである。かるが故に私は、紳士閥の思想より此の輩の思想を民族運動の手段としては、よく徹底して居ると言ふ。

更に他の方面より考へて見る。私の先の論文にも少しく觸れたところであるが、紳士閥の政治的民族運

動、は自ら民族心を高調し其の利害を絶叫しつゝ、他に對しては民族心を去れと求むるにある。何たる矛盾であらう。故に彼等が日本に何等かの要求をする時、民族の要求と云ふ文字を用ひたとすれば、其れは人類の要求と云ふ意味に解釋しなければ意味を爲さない。表面の看板を變へないだけで、彼等の思想は故意にか過失にか、民族心、國家心を超越した内容のものになつて居る。

故に此の點を共產化主義者の人類愛の立場から論議せられれば、一言もない。

然しながら、議論せられて一言なくとも、私は紳士閥の政治的民族運動の基礎思想を抹殺し終らうとは思はない。何となれば、本來該思想は、現在を根底として立つてゐるものだからである。而して現在の世相を見る時、そこに此の思想の存在の價值を認むる餘地を認むるからである。

果して然らば、民族問題に關し、よく徹底的な見解を有せる共產化思想家は、何故民族問題を眞向振翳さなかつたかを討究する要がある。彼等は此の點に關し、明白に言ふて居る。彼等は階級争闘の方を民族争闘より以上重大だと考へた爲である。階級争闘の理想的解決は同時に民族問題を自然消滅に歸せしむる事を確信して居る爲である。同時に又紳士閥の民族運動に参加する事は當然紳士閥の階級心に利用せらるる結果になる事を虞れてゐる爲である。辛日鎔の先に引用せる文字によつても幾分此の間の消息を察するに足るが、私は更に同人の前掲論文の冒頭の文句を引用して見る。『夙に兩班政事業者は民衆を欺き竊に政權を賣りたるが、此の兩班より新化して、紳士閥民族運動者は今や再び、民衆を欺き竊に民衆運動を私藏し之を賣

る。之れ彼等の使命なり。』

私は以上を以て此の種の思想の批評を終る。批評を終るに當り、朝鮮には右の外毫も民族問題を念頭に置いて居ない、純然たる階級争闘を考へて居る無産者の群が出て來た。其れは矢張新生活事件に被告人の一人になつて居る、『自由労働者組合趣旨書』の筆者金思民一派の人々である。而し此の連中は全然其の運動の方法に於て共產化主義者と同一の歩調をとるらしいから特別なる説明を略する事にする。

第三、折衷主義

折衷主義なる名前は頗るまづい。而し名前は誰かに願ふとして私は實質を見度い。此の折衷主義者とも見るべきは彼の高麗共產黨の立場だ。彼等にありては共產主義的運動よりも民族運動の方を重大視して居る。然ればこそ彼等は民族運動に共產主義的思想、運動を利用しやうとして居るのだ。彼等が全露派に對して、同派が徒らに露國の走狗となり、獨立軍軍人を犠牲とすると難じて居るのは何よりの證據であり、全露派から、民族運動にのみ重きを置きて共產主義的觀念に乏しと罵られたのは當然である。

私は共產主義を信奉する事なく、只之を民族運動に利用すると云ふ立場、若は、共產主義を信奉し、之れによる民族問題の解決を希望しつゝ、其の共產主義の實現以前に民族問題が解決せらるる事を信ずる立場が、あるであらうかを疑ふ。何となれば共產主義と民族問題との關係は、共產主義の實行が民族問題の

解決を同伴すると云ふ關係にあるのだから、共產主義の實行なくば、民族問題に何の益するところもなく、共產主義を信奉する事なく、其の實行を是認する事は出来ないだらうし、又共產主義の實行が初めて民族問題を解決する關係にある以上、共產主義の實行前に、民族問題を解決しやうと云ふのは、無理な注文である。

茲で私の考へによれば此の主義の人々は、いつ迄も此の思想で押して行く事は出来ない。彼等が若し共產主義の信奉者であるならば、彼等は共產化主義的思想に推移する筈であるし、又若し共產主義の信奉者でないならば、彼等は政治的民族運動者になるか否かは別として共產主義的思想の利用を思ひ止まらねばならぬ筈だ。

一體こんな中途半端な運動が何所から出て來たかは明かでないが、彼等のつい昨年暮れ頃やつたところを見ると、想像がつかぬ事もない。昨年の冬日本軍が西伯利亞より撤退し初めた頃、赤軍が漸次南下し初めた。此の頃沿海州方面に居た高麗共產黨の林炳極は、直に赤軍に参加した。白軍追跡の急先鋒を以て任じた。彼等は此の如き態度に出で自ら利するところ有らうとしたのだ。赤軍は白軍を援助して居た日本を怨んで居る。故に今赤軍を援けてさへ置けば、彼等が對日運動を企てる時、萬事赤軍の好意を期待する事が出來ると考へたのだ。けれ共此の考は誤つてゐた。赤軍は白軍を討滅し終るや、やがて領内に於ける、朝鮮人の武装を解除しやうとした。全世界を共產化する事を唯一の目的とせる赤軍にとつては、朝鮮人一

部の區々たる民族運動の如きは、心に留める程のもでもなかつたのだつた。其の結果一部は支那領に走り、一部は共產主義を奉ずる約束で、露領に止つたと聞いて居る。之れで私の思ひ通り形がついたと云ふものだ。どうせ彼等は、日、赤、白の巴狀關係につけ入つた變態的產物に過ぎないのだから。其の巴狀關係のなくなつた今日、當然の運命に落ちついたんだ。

私は此の項を終らうとするに當り次の事を思ひついた。此の連中は主義方針に従つて行動しやうと言ふのでなくて、日本を困らせさへすればよしと云ふので、其の場／＼で何をでもやる連中だ。而してそんな心持をもつた者は朝鮮人中には可也多からう。果して然らば、今後と云へども機會ある毎に、此の種の運動騷擾は起さるに違ひない。而して其の効果は機會次第で頗る重大にもなり得る。假りに日本が日露戰爭の様な戰爭を開始したとする。其の國家多事なるに乗じて、此の種の連中が蜂起したとする、果して日本を苦しむる事如何だらう。かういふ風に考へて來ると、徹底的理論に従つて、じわり／＼と來る、共產化主義者の運動よりも恐ろしいとも見られる。此の點を考量して日本の爲に謀るに、日本は一日も早く内鮮人平等の大本を立てて民族心消滅の方策を講ずべきではあるまいか。

結 論

以上のところによりて問題は、有識有產者階級の政治的民族運動と、有識無產階級の共產化的民族運動

どの何れが、民族運動として本流と見るべきかのみである。換言すれば、朝鮮千數百萬の無産者は、右兩運動の何れを歓迎するかの問題のみである。最少限度に於て、有識有産者の政治的民族運動に對する日本の態度、共產主義的思想の世界的發展の豫想、無産者の物質的困厄の程度、が如何に推移するかによつて決せられねばならぬ問題である。然しながら、何れの國たるを問はず、無産者は民族心、國家心の乏しいのを原則とする。故に思想本來の性質上は、共產化主義者の思想が、無産者にとつて、より共鳴し易い事は確かである。從て有識有産者が、無産者を其の身方とする事は、餘程六ヶしい事と思ふ。

此の如く考へて來ると、最後に私は次の様な疑問を懷く。

(一)朝鮮の有識有産者、竝に日本政府の努力の結果、民族平等の實が上つても、無産者が資本家から受ける階級的壓迫が、とり除かれぬ限り、無産者の日は來ないと云ふ、彼等の嘆きは同情すべきものではなからうか。

(二)果して然らば彼等が、民族運動に第一義的意味を認めなくなつたのは自然の理で、今更之を逆行せしむる方法はないのではあるまいか？

(三)階級争鬭解決の問題は、現在の國家に一樣に課せられた不可避の負擔である。之れをさける事は出來ない。而し朝鮮問題は朝鮮民族に平等の權利義務を認むる事によつて、解決せらるべき事は前述の通りである。而して此の點は日本の義務でもある。果して然らば、日本は一日も早く朝鮮民族に其の民族とし

て求むるところのものを與へ、民族問題の累を絶ち、階級争闘の問題を内鮮人共通の問題に引き直し、共に與に心配するの途に出づる方が、賢明な策ではあるまいか。(大正十二年二月)